

# 来週の「売り物記事」はこれ



2019年4月5日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 難民から政治家へ

### ベルギー初のアフリカ系首長の足跡

7日（日）



ベルギーに昨年11月、初のアフリカ系首長が誕生しました。現在のコンゴ民主共和国から約40年前、政治難民として逃れてきたピエール・コンパニーさん（71）です。サッカーのイングランド・プレミアリーグで活躍するバンサン・コンパニー選手の父親でもあります。アフリカを離れ、欧州の旧宗主国で父となり、そして政治家になるまでの半生を取材しました。

筆者はブリュッセル支局の八田浩輔記者です。



## いよいよ「辛口数独」

くらしナビ面 7日（日）

毎週末掲載の「パズル」が、4月から2ページに増えます。新設のパズル面（毎週日曜日）の目玉は「辛口数独」。朝夕刊に連日掲載している初級・中級の問題に物足りなくなったファン向けに、難度の高い中級と上級を交互に掲載します。

「日曜くらぶ」に掲載していた「スリザーリンク」も引っ越してきます。推理力やひらめき力を鍛えるビジュアルパズルもお楽しみに。

## 自由恋愛で民主主義が進化？

### 広岡守穂・中央大教授が新説

夕刊特集ワイド 8日（月）

夏目漱石や森鷗外らが書いた文学作品ではなく、読者をハラハラ、ドキドキさせる大衆小説（通俗小説）にこそ、その時代に生きた人々の欲望が現れる――。

そんな考えをもとに、20世紀中盤までの新聞小説を読み込み、民主主義という政治感覚が人々の間にどんな形で育っていったのかを、政治学者で中央大学法学部教授の広岡守穂さん（67）が新著「通俗小説論 恋愛とデモクラシー」で解きました。

「日本の民主化は上からではなく、庶民の内なる欲求ではないか」。広岡さんの話に耳を傾けてみましょう。



## 「待ったなし」 子どもの自殺対策

くらしナビ面 9日（火）

国内の年間自殺者数は2万人強にまで減りましたが、若者は横ばい傾向です。政府統計によると、2017年の10代と20代の死因の1位は自殺で、がんや事故よりも多くなっています。

原因のトップは学業不振や進路不安。専門家は「子どもの社会は、決まった価値観に縛られて柔軟性のない『一本道』。外れると生きづらい」と指摘します。

大人にできることを探ります。

## 「象徴として」第5部 支え合い

社会面 9日(火)から



天皇、皇后両陛下は10日、結婚60年を迎えられます。  
象徴のあり方を追い求めてきた陛下と常に支える皇后さま。何よりも公務を最優先する生活を続けるなか、夫婦や家族での時間も大切にしてきました。時にはテニスや音楽といった共通の趣味を楽しみ、子育ても従来の慣習とは異なり自ら行ってきました。

退位を控えた陛下と皇后さまの日常の姿を3回にわたってたどります。

### 皇族の「お印」植物

環境面 10日(水)

皇族方が名前の代わりに身の回りのものにつける「お印」。どんな樹木、草花が選ばれているのでしょうか。

来月の代替わり、平成に代わる新しい元号「令和」の施行を前に、お印の植物を調べました。

### 「宇宙」にヒント 福祉用具、お年寄りを支える

社会保障面 10日(水)

人口減少などに伴い製造業の先細りが進む中、超高齢化社会の到来で福祉用具の国内市場が活況を呈しています。義肢や車椅子、会話補助などの機器の市場規模は、10年前に比べて3割以上伸びました。

専門性を持つ異業種からの参入も相次ぎ、お年寄りの暮らしを支える新たな用具が生まれています。

「宇宙」にヒントを得たものをはじめ、驚きの最前線に迫ります。



### 東京パラリンピック企画「CONNECT」

社会面 12日(金)から

東京パラリンピックの開幕まで13日で500日。競技と仕事を両立しているパラスポーツ選手、大会ボランティアに応募した視覚障害者ら、さまざまな立場で東京大会を目指している人たちがいます。



連載「CONNECT」の今回のテーマは「支えを生かす」。周囲のサポートを背に存在感を高め、それぞれの目標達成に向けて奮闘する人々の姿を伝えます。